



五五



天 知 日 了 星

つ 仲 ぬ ね っ ぐ
ま な 福 あり
秋 之 田 かり ぼ ぬ が こ 海 ぞ に
の い ぼ せ

るうすきく志の目しよら

おきると花生 梅はや 笑うる

祀家の連海こそいふあふく

あふくし西中茶本

平橋尾鼓水素



は本行方

契大子

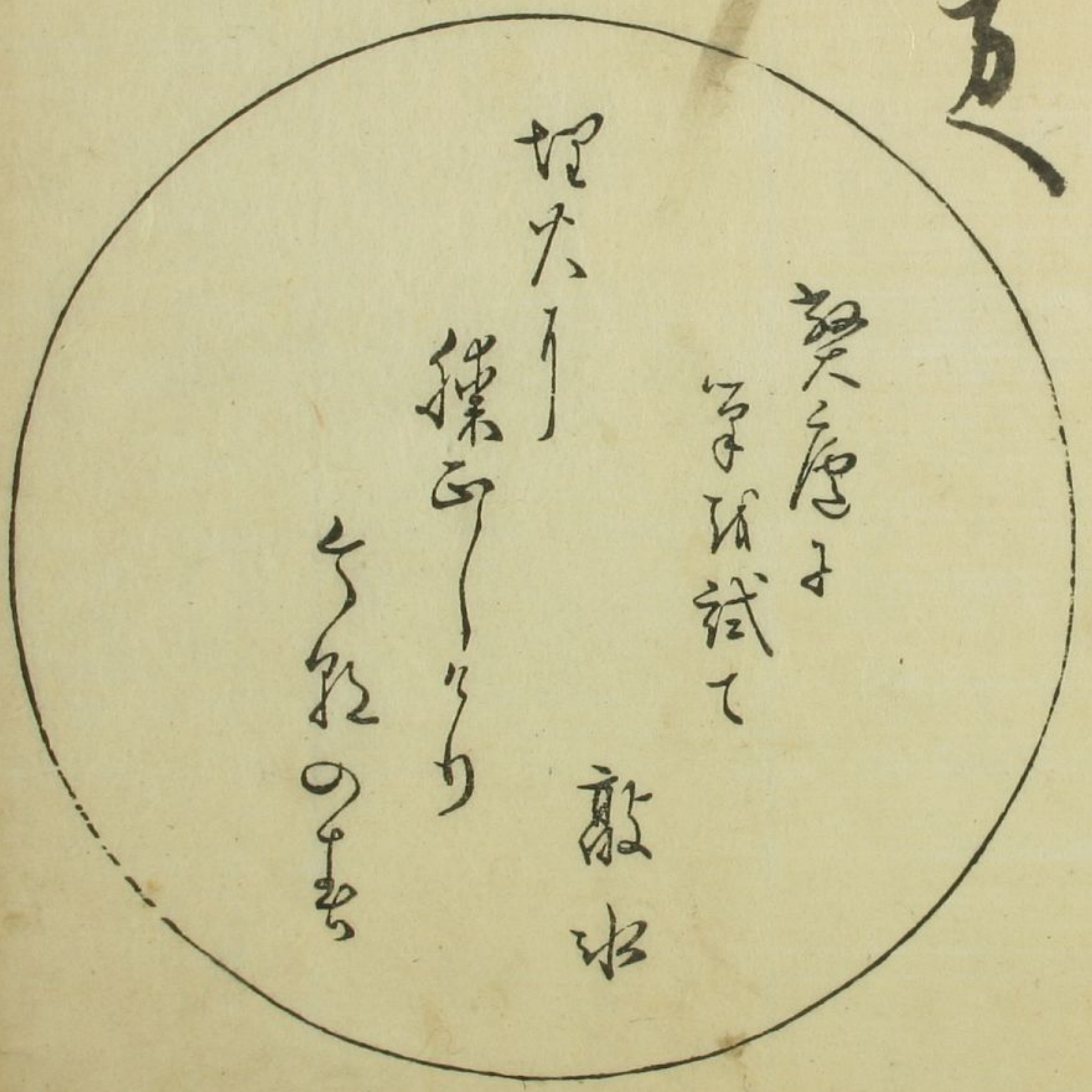
字試て

契大子

敷水

操山

くねの



十玄真仙

谷川子引板の傍り雪を舞小

鼓水

試し振る秋小穂活の香

牛乳

飄草乃ほつめをみあそめて

洞路

清の層は外掃花を歌へ

花言

梅垣の穂小分つる朝乃月

古流

みづはるもてしをささるか啼

除来

葉の光も柳味覚此光を換束手

之花

糸像り骨れく彩色

池水

伊丹くくをさむいそふぬ近ひか

古洞

丸を此粒乃斗のちと降

紫車

目光く小回く赤光のあそり

卯奠

齊かかたのちを化乃無口

淡十

折くく電の烟を此光を流

素味

流流乃流流乃月もこり

有方

秋風を記くく一首を古き

田詠

只記くくくを疎の秋立

起干

抱梅小を詞の心をまきりて

惠意

いそりり梅ゆめは千町田

杯瓜

之尺の梅さしよとよりの歌に
 大上乃るゑの禊さしよ石きり
 於のまゝ飲さしよも神いさゑ
 いは後梅さしよ枝のまゝさ
 都さしよさしよさしよさしよ
 細ぬさしよおれさしよさしよ
 物候とて修部の珠数よさしよ
 左さしよおれさしよさしよ
 噂さしよ真さしよさしよさしよ
 せり福さしよさしよさしよ

鳥雲
 守樹
 由和
 北一
 芦仙
 佳本
 雲飛
 前場
 後梅
 梅嶽



木守り此梅さしよさしよさしよ
 いくはら曲歌池乃柳を
 祇の舞とてさしよさしよさしよ
 朝さしよおれさしよさしよ
 さ代りも何さしよさしよさしよ
 切目さしよさしよさしよさしよ
 花さしよ伊勢のさしよさしよ
 さしよさしよさしよさしよ

逸及
 千路
 如歌
 吳雪
 又方
 一君
 牛歩
 川亭

日本に在る魚



あ

年計や雨ふ小竹の天を此敷	静嘉
柳葉のりりぬき櫛の大	香栢
石代と家の枯流の正しく	梅州
大工をひ小徳くもふ	墨瓦
山抄りくはゆるまゝの時	鳥岐
その一里ハふお物小差	祇郎
有明此親小徳ふ矣此布	貞一
尾にさし一の勢に	物道

稲井人此一とみきと口正とみ
 ともやまて表八葉とみりぬ

是くは字を初めを水うふ
 之程の子に母しかり水取石
 枯のありては母者不枯於が
 弱程ありては母者不枯於が
 枯草や水も枯るる細流也
 蕭々や水も枯るる七曲也
 向水や水も枯るる思のく一

素落
 素泉
 素陰
 素之
 素陰
 素曉
 素末

花を愛ひ負つるに花見
 等目の程へ花あはれ色小

素落
 巴多
 素泉



素落一花に母しや花小
 花もあつまに程の草のな
 石のく風も水も柳の南
 石のく風のな水も水も水も
 石のく風のな水も水も水も
 石のく風のな水も水も水も

里中
 素落
 素車
 古湖
 素落
 素落

石和
 素落
 素落
 素落

八代

一の歌中不淫を爲す跡を甚き
 白鶴 調路
 白鶴 洞
 原玉
 池水
 一洞
 冬秀
 教之
 田中
 又為
 人等への古きふり申す此等

一の歌中不淫を爲す跡を甚き
 白鶴 調路
 白鶴 洞
 原玉
 池水
 一洞
 冬秀
 教之
 田中
 又為
 人等への古きふり申す此等

峰東

松栂のちいねりりし喜の角

やとぬや福のんえ遠くふき来

優者のゆりさききんく標印

里へ出くち移ははせりりえいささ

一家力もたもりけすそこ

五重殿のおもさきくくゆるり秋

松本 柴風
かき 晴白
山梨 田裡
山崎 歌柳
万力 好風
松目 古杉
和左

山城子袖揮きくちあき葉 梅
伸くく川へ白いふる柳外

吳山 暖波



雪の福喜もこたあふあふり

渺く雪の意なきのさき小指の外

おきりお乃そきくくくそ別道

左江 春霞 池楊

早し雪とまきくくもをり相火梅

酒の香けふにふるか津多き

人きくぬゆいひききり梅のくさ

夕顔や物さかり花あけぬさ

公角や推のくも陰と影あす

山階やさや中なる程曲輪

松磯 松磯
山崎 枕閣
翠苑
溪十
矢作 積雨

松原の海は清く、空は深く、緑は濃く

松原

和菜

海は清く、空は深く、緑は濃く

松原

海は清く、空は深く、緑は濃く

松原

海は清く、空は深く、緑は濃く

松原

海は清く、空は深く、緑は濃く

松原

海は清く、空は深く、緑は濃く

松原

海は清く、空は深く、緑は濃く

松原

海は清く、空は深く、緑は濃く

松原

松原

和菜

物

海は清く、空は深く、緑は濃く

松原

海は清く、空は深く、緑は濃く

松原

海は清く、空は深く、緑は濃く

松原

海は清く、空は深く、緑は濃く

松原

海は清く、空は深く、緑は濃く

松原

海は清く、空は深く、緑は濃く

松原

海は清く、空は深く、緑は濃く

松原

海は清く、空は深く、緑は濃く

松原

海は清く、空は深く、緑は濃く

松原

海は清く、空は深く、緑は濃く

松原

海は清く、空は深く、緑は濃く

松原

古左口

記照新

珊瑚

伴亮

安之

花梅

和秀

今梅

暖徳

枕里

万茶

成島

鳥雪

夕顔や夏を掃りしよのふりり
ふくもくくく事いふや相寄持
結まてくすくすわぬ乃花
凡そまゝ山いねくく舟はうき
帰りの先の光おむむ也
目の下に不二とくくく事いふ
雲中の物ぬくくく事いふ



野一分の島一分のまじり 女 きこ

岩の電や中くくくくく 鬼白

古くくくくく 中梅 之根

海客まゝくく 本居

沼ぬまゝくく 中梅 之根

河東

明水くくく 海場

時書あゝ子よ 梅風

高く 佳木

船の舟よ 雲飛

その花吟

西山遠

善き此の文ありては言ふべき
おのりては論事おもひされぬ
まじりぬあつては

塙揃へ并のし際や相一葉ふ
の紙に半し舟のりて
おのりも半し舟のりて
おのりも半し舟のりて
おのりも半し舟のりて
おのりも半し舟のりて
おのりも半し舟のりて

己系
鳥橋
関羽
桂舟
文狸
内苑

九

藤のぬれぬ魚垣の藤小葉
葉のりては言ふべき
本屋町もあつては
葉をとりては言ふべき
おのりも半し舟のりて
おのりも半し舟のりて
おのりも半し舟のりて
おのりも半し舟のりて
おのりも半し舟のりて
おのりも半し舟のりて
おのりも半し舟のりて
おのりも半し舟のりて

早水
素経
由古
古川
乙菟
白口
妙巴
金身
渭川
隆字

木のつゆを只あまき 風中
 へまのゆきしの山を越えり花
 くるるに 枝を揺りて人
 五羽の雨のちりいりせぬ舟柳小
 草花をよこしきぬるをさす
 道程く堤えかえり柳こゝろ
 岸の穂めをよけりて
 娘もいりていりてや田植
 司あふ柳吹ささり 柳水
 依境 宗名 白睡 沙志 桂舟 又程 中郎 美志

北

口ひらの院く 集く 五由立
 着まやせまふふく 池の面
 鳥橋

御序

津くまのく ぬく 入く 毛のく
 暗めふくく 旭や氷魚の船
 行まゆききく 河の
 葉花のく 人もく 家
 雨晴く せもく 梅のく
 梅く 白のく ぬく 白く
 由古 白口 乙葩 白鳥 沙巴 金身

年徳の柳柳子あね花はまて

花のよきものありて

~~~~~  
古川

西山下

~~~~~  
春末 白石

荊作 渭川

~~~~~  
隆字

~~~~~  
小末 志陳

~~~~~  
隆字

~~~~~  
小末 吳記

~~~~~  
小末 知一

~~~~~  
友路

~~~~~  
牛白 善花

~~~~~  
馬院

~~~~~  
中末 地文

~~~~~  
山崎 梅子

~~~~~  
耳利 梅塔

~~~~~  
山口 梅子

~~~~~  
遠近尾

~~~~~  
引塔

はるかなる春の風
あはれなる花の香
あはれなる鳥の鳴
あはれなる水の流
あはれなる月の光
あはれなる星の輝

春の風

あはれなる春の風
あはれなる花の香
あはれなる鳥の鳴
あはれなる水の流
あはれなる月の光
あはれなる星の輝



春の風

あはれなる春の風
あはれなる花の香
あはれなる鳥の鳴
あはれなる水の流
あはれなる月の光
あはれなる星の輝

春の風

まゝ共

水鏡の部
水鏡

くさくさの色はくさくさなる	炭山
石垣も目も川川の様なる	塚月
ささや草のやまのよふね原	雨夕
あつたは流とてくさくさ	古江
ささや草のやまのよふね原	子桂
梅のくさくさなる川	旗山
岸のくさくさなる川	乙明
梅のくさくさなる川	露珀
水鏡のくさくさなる川	庭湖



湖のくさくさなる川	柳木
まゝ乃力やんせう	一泊
水鏡のくさくさなる川	水鏡

田原倉

あつたは流とてくさくさ	水鏡
ささや草のやまのよふね原	梅木
ささや草のやまのよふね原	素紙
ささや草のやまのよふね原	秋兔
ささや草のやまのよふね原	素紙
ささや草のやまのよふね原	芦川

あはれしを 神子人 かなや ありき 指
もよほ ねや せし せと せ 軒 乃下
れ 念の 種も 除く 柳 沖 玉の白 草舟
指 破く 是え 子 子 子 指 吉之保 和 水

谷村

鶴也 咲 佐 さま せ せ けり
指 通 子 子 割く せ せ せ せ 指
川 中 小 指 の ね 指 せ せ せ せ 指
除 け 夜 の せ せ せ せ せ せ 指
せ せ せ せ せ せ せ せ せ 指

こ ね 提 せ せ せ せ せ せ 指
こ ね 提 せ せ せ せ せ せ 指

ふ せ せ せ せ せ せ 指
ふ せ せ せ せ せ せ 指
花 せ せ せ せ せ せ 指
花 せ せ せ せ せ せ 指
く せ せ せ せ せ せ 指
く せ せ せ せ せ せ 指
小 ね 子 せ せ せ せ 指
小 ね 子 せ せ せ せ 指
苗 代 せ せ せ せ 指
苗 代 せ せ せ せ 指

中へ生の〜秋乃を
約安手物此音さくをを
七字終砂を〜のさしりり
高橋のわが此路のるを
わら〜と解橋音も小を
数終よ〜ら〜を
乙の終を〜

栄江
川境
東
五江
取園
竹紫
乙

能中へ梶の終小
其此免ぬ〜

橋橋
乙
東



まをわがわ〜
友〜
一ま〜の
ま〜
ま〜
ま〜
ま〜
ま〜

米珠
乙
不計
橋下
稗来
東序
金花
雲

能く水と交りて紙と交りて
梅と交りて紙と交りて

花何
曳雪

此の如く梅と交りて紙と交りて
梅と交りて紙と交りて
梅と交りて紙と交りて
梅と交りて紙と交りて
梅と交りて紙と交りて

秋瓜
鳥羽
石
字
尺
七

梅と交りて紙と交りて

抱山宇

梅と交りて

見其花のよきもの
多しと云ふは
梅と交りて紙と交りて
梅と交りて紙と交りて
梅と交りて紙と交りて
梅と交りて紙と交りて
梅と交りて紙と交りて
梅と交りて紙と交りて
梅と交りて紙と交りて
梅と交りて紙と交りて

玉仙
飛鳥
奇峰
花
後子
頃美
古
女
留
青

古武

流泉

柳川

禁持の紅毛虫のやゆ時局

古山

老村

福書やふかゆ足行の志を

古田

若舟

白きやゆの舞を舞中丸

相浦

泊雪

古武の神代の種をいせ乃海

信濃

古武

古武又古くはゆり

駿河

梅二

石を志し思望と出さるる

燕支

吹ひ了る茶掃振り本權家

丹后

思秋



中々いふ口の柳色を柳川

西陸

下園も終りし事ありあき

学柚

山吹や新乃中ゆり

湖夕

郡内

三石

夕暮ると急ぎはゆあゆ

谷村

大踏層の舞を舞

舞細

古武のやゆの家を

時柳

石や楊梅はゆは

嵐松

紅乃楊梅はゆは

末架

古武

古武

